



# 凡事徹底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校  
学校だより  
令和7年度  
第10号(2月号)

## 「夢は日本代表としてワールド杯出場」

教頭 森 龍太郎

「グリット<GRIT>」という言葉を、知っていますか。「近年、成功者の共通点にグリットが見られる。」という理論が展開されて話題を呼びました。グリットとは、才能や生まれながらに備わった能力ではなく、「やり抜く力」と定義されていて、アメリカの心理学者たちの間でも見直されているものです。

多くの人は最初に決めた目標や夢を、いつしか「これくらいで」「こんなもんで」と妥協してしまいがちです。かく言う私自身も大人になり、そういう癖が身についている自分に気がつき、良くないなあと襟元を正すときがあります。そうやって生きてきた結果、たくさんの可能性を失って来たのだろうなと、少しばかりの後悔を覚えることも。もちろん、「努力すればどんな夢でも叶う。」なんてことを、軽はずみに口にしても何の説得力もないことも分かっています。でも、あえて言葉にしたいのです。夢を叶えた人は、夢を叶えるまで「やり抜いた」人たちだということを。

私が大好きなサッカー選手の三浦知良(KAZU)選手は59歳になった今でも、現役のプロサッカー選手として活躍しています。彼は名門静岡学園高校サッカー部時代に、99%プロにはなれないと名将として名高い同校監督に告げられました。当時のKAZU選手は、県の選抜選手は愚か、地区の選抜選手にさえ選ばれる事のなかった無名選手です。年代別の日本代表クラスが多数在籍する静岡学園でも目立つ存在ではありませんでした。ただ、KAZU選手が、他の選手と違ったのは、サッカーの才能ではなく、「グリット(やり抜く力)」に長けていたことです。99%無理と言われたKAZU選手は、「1%の可能性はあるんですよね。」と、単身ブラジルへ留学。ブラジルの名門チームとプロ契約を結び、日本のプロサッカーリーグであるJリーグ発足前年

に、スター選手として帰国するのです。当時のサッカーライターとして、まさにスーパースターとして日本代表の中心選手となったKAZU選手でしたが、大きな挫折が彼を襲います。「ドーハの悲劇」。試合終了1分前の相手チームによるゴール。日本初のワールド杯出場が手の届かぬ夢へと変わったのです。ピッチに倒れ込む選手の中で、たった1人僅か数秒の残り時間に逆転を信じリスタートしようとするKAZU選手の姿がありました。その4年後、日本代表はアジア予選を勝ち抜き初のワールド杯出場を決めます。しかし、本大会前にKAZU選手は代表から落選します。日本サッカーを長きにわたり牽引した彼の最大の夢、ワールドカップ出場は、叶うことなく終焉しました。

KAZU選手は当時を振り返って、本当に辛かったけどサッカーを辞めようとは思わなかったと話します。そして、そういう挫折があったからこそ、今も尚、現役のサッカー選手でいられると振り返ります。KAZU選手は59歳になった今も「夢は日本代表としてワールド杯出場」と堂々と述べます。足も遅い、体も大きくないKAZU選手が、多くのファンの心を惹き付けるのは、その「グリット(やり抜く力)」にあるのだと思います。

中学・高校時代のKAZU選手。君たち二中生と何も変わらない少年だったのだと思います。どこにでもいるサッカー少年。でも、その少年が特別な一人になり得た。プロサッカーという華やかな世界を例にとって話をしましたが、君たちには幾らでも可能性があるということ。たった1度しかない人生です。どう生きるかを決める自由が君たちにはあります。その可能性を、すり減らさないでください。たった1度の人生を最高に楽しんで、最大に有意義に使ってください。これからの中学生の人生がそうすることを願っています。

### 《学校教育目標》

自ら学び、深く考える生徒 (知)  
心豊かで、思いやりのある生徒 (徳)  
たくましく、健やかな生徒 (体)

蕨市立第二中学校

電話 : 048-443-2670 FAX : 048-443-2671

URL : <http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/>

e-mail : warabi-2@warabi.ne.jp